

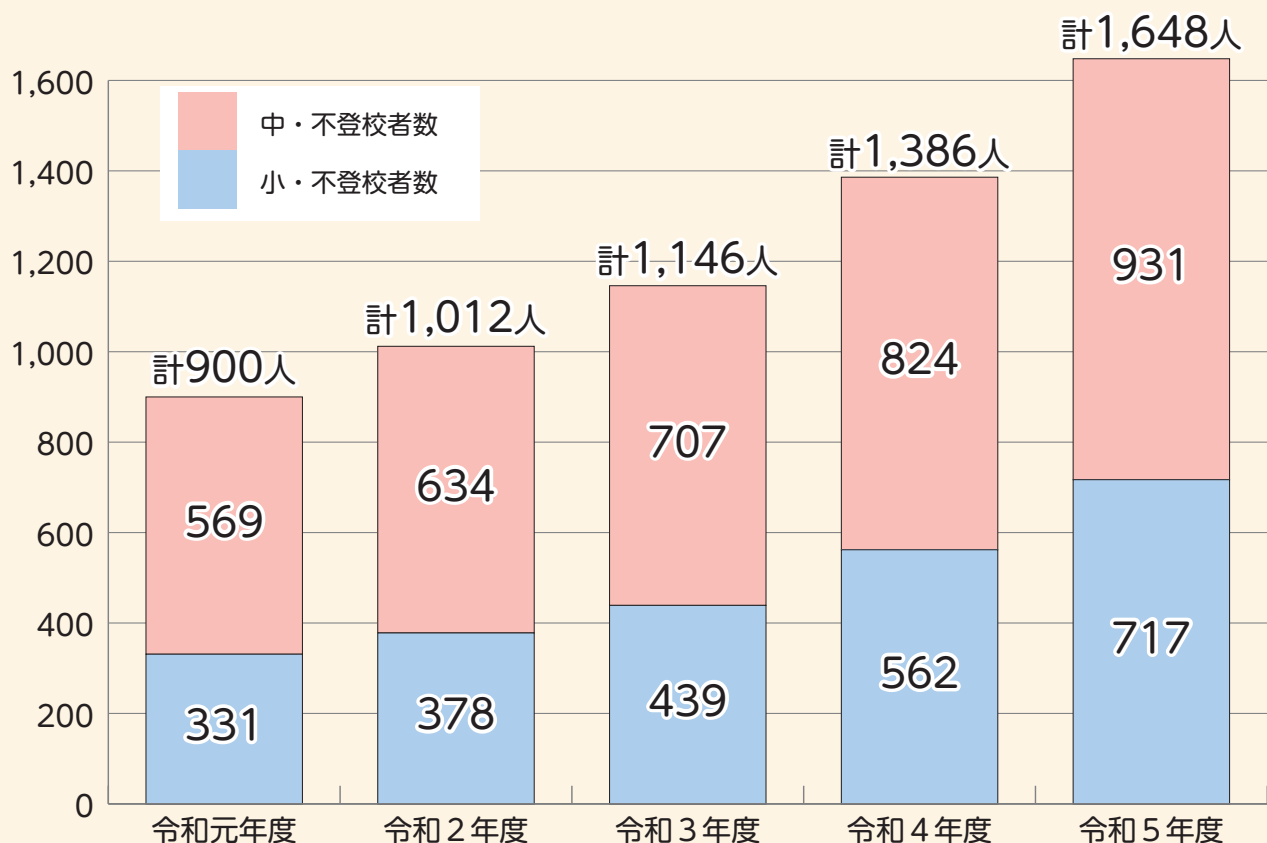
2 不登校をどう理解し、どう受け止めるか

(1) 不登校とは、どのような状態を指すのでしょうか？

文部科学省による不登校の定義は、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く）で、年度間に30日以上登校しなかった者」です。

(2) 練馬区では、どのくらい不登校の児童生徒がいるのでしょうか？

不登校児童生徒数の推移



令和5年度における練馬区の不登校児童生徒数は、小学生が717人、中学生が931人、合計で1,648人でした。

この数値を1クラスあたりで換算すると、小学校ではおおよそ1人程度、中学校ではおおよそ3人程度、不登校児童生徒がいるイメージです。特に中学校では、小学校に比べて、1クラスあたりの不登校児童生徒数が多くなる傾向が見られます。

(3) 不登校のきっかけや原因には、どのようなことが考えられますか？

練馬区不登校実態調査では、不登校を経験したお子さんたちが、学校を休み始めたきっかけについて答えてくれました。

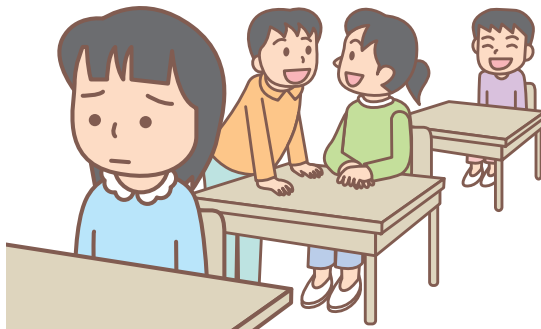
練馬区不登校実態調査

問：学校を休み始めたときのきっかけ【本人回答（複数選択）】

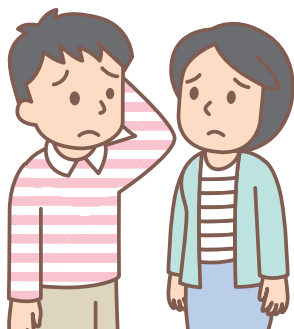
（回答のうち、上位5位を示します）



身体の不調 50%



学校やクラスに合わなかった 43%



友達のこと 38%



先生のこと 35%



勉強のこと 32%

学校を休み始めたきっかけは、お子さんによってさまざまです。また、同調査のインタビューの中には、「明確なきっかけや理由がわからない」、「聞かれたくない」といった回答もありました。

不登校の背景や要因は多岐にわたり、本人・家庭・学校など、さまざまな要素が複雑に絡み合っていることが多くあります。

取り巻く環境によっては、誰にでも起こり得るものとして受け止めることが大切です。

不登校にはさまざまな
背景や要因がある

不登校は誰にでも
起こり得る